

平成29年度後期 情報検定

<実施 平成29年12月17日（日）>

2級

(説明時間 11:05~11:15)

(試験時間 11:15~12:15)

- ・試験問題は試験開始の合図があるまで開かないでください。
- ・解答用紙（マークシート）への必要事項の記入は、試験開始の合図と同時に行いますので、それまで伏せておいてください。
- ・試験開始の合図の後、次のページを開いてください。＜受験上の注意＞が記載されています。必ず目を通してから解答を始めてください。
- ・試験問題は、すべてマークシート方式です。正解と思われるものを1つ選び、解答欄の○をHBの黒鉛筆でぬりつぶしてください。2つ以上ぬりつぶすと、不正解になります。
- ・辞書、参考書類の使用および筆記用具の貸し借りは一切禁止です。
- ・電卓の使用が認められます。ただし、下記の機種については使用が認められません。

<使用を認めない電卓>

1. 電池式（太陽電池を含む）以外の電卓
2. 文字表示領域が複数行ある電卓（計算状態表示の一行は含まない）
3. プログラムを組み込む機能がある電卓
4. 電卓が主たる機能ではないもの
 - *パソコン（電子メール専用機等を含む）、携帯電話（PHS）、スマートフォン、タブレット、電子手帳、電子メモ、電子辞書、翻訳機能付き電卓、音声応答のある電卓、電卓付き腕時計、時計型ウェアラブル端末等
5. その他試験監督者が不適切と認めるもの

＜受験上の注意＞

1. この試験問題は21ページあります。ページ数を確認してください。
乱丁等がある場合は、手をあげて試験監督者に合図してください。
※問題を読みやすくするために空白ページを設けている場合があります。
2. 解答用紙（マークシート）に、受験者氏名・受験番号を記入し、受験番号下欄の数字をぬりつぶしてください。正しく記入されていない場合は、採点されませんので十分注意してください。
3. 試験問題についての質問には、一切答えられません。自分で判断して解答してください。
4. 試験中の筆記用具の貸し借りは一切禁止します。筆記用具が破損等により使用不能となった場合は、手をあげて試験監督者に合図してください。
5. 試験を開始してから30分以内は途中退出できません。30分経過後退出する場合は、もう一度、受験番号・マーク・氏名が記載されているか確認して退出してください。なお、試験終了5分前の合図以降は退出できません。試験問題は各自お持ち帰りください。
6. 試験後にお知らせする合否結果（合否通知）、および合格者に交付する「合格証・認定証」はすべて、Webページ（PC、モバイル）での認証によるデジタル「合否通知」、デジタル「合格証・認定証」で行います。
 - ①団体宛には合否結果一覧ほか、試験結果資料一式を送付します。
 - ②合否等の結果についての電話・手紙等でのお問い合わせには、一切応じられませんので、ご了承ください。

問題を読みやすくするために、
このページは空白にしてあります。

問題1 次の経営戦略に関する各設問に答えよ。

<設問1> 次のPPM分析に関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

自社の製品や事業の市場競争力を客観的に評価・分析するための分析手法にPPMがある。PPM分析では、図のように市場占有率と市場成長率を高低差で組合せ、自社の製品や事業を「花形」、「金のなる木」、「問題児」、「負け犬」の4つに分類する。

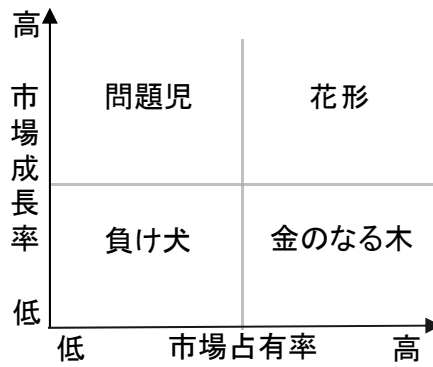


図 PPM図

- (1) … 成長市場であるため、投資を継続する必要がある。利益を生み出す効果はそれほど大きくないが、いずれ(2)になる可能性がある。
- (2) … 市場成長率が低くても高いシェアを持つため、投資を少なくしても大きな利益創出効果が期待できる。
- (3) … 成長市場であるのに自社製品が売れていない。大きな投資を行うことによって(1)になる可能性がある。
- (4) … 将来性もなく、利益創出効果もないため、将来的には撤退を考える必要がある。

経営戦略では、(2)で得た利益を(3)に投入することによって、自社製品を成長させる手法がある。

(1) ~ (4) の解答群

- ア. 金のなる木
- イ. 花形
- ウ. 負け犬
- エ. 問題児

<設問 2> 次の SWOT 分析に関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

SWOT 分析は、経営戦略を立てるために企業状況を分析する際に用いられる。SWOT 分析では、企業の状況を外部要因と内部要因から分析する。内部要因にはコアコンピタンスのような企業の□□(5)と経営資源不足のような企業の□□(6)がある。外部要因には、市場の景気が良くなることによって自社の売上を伸ばす□□(7)や、他社の市場進出による□□(8)などがある。

(5) ~ (8) の解答群

ア. 機会 (Opportunities)

イ. 脅威 (Threats)

ウ. 強み (Strengths)

エ. 弱み (Weaknesses)

問題2 次のプロジェクトマネジメントに関する各設問に答えよ。

<設問1> 次のPERTに関する記述中の□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

プロジェクトの日程管理や工程管理を行うために、作業工程の順番と所要時間を表すアローダイアグラムを用いたPERT (Program Evaluation and Review Technique) 図がある。

アローダイアグラムでは、作業の流れを矢印で表し、作業名と作業に必要な日数(所要日数)を矢印上の英字と()内の数字で表している。また、丸数字はノードであり、作業の開始点または完了点を表している。各ノードから出ている矢印の作業は、ノードに入る矢印の作業をすべて終了しないと開始できない。矢印が破線の場合は、ダミー作業を表し、所要日数は0日だが、事前に行わなければならない作業を表している。

ある作業工程をアローダイアグラムで表すと図のようになった。

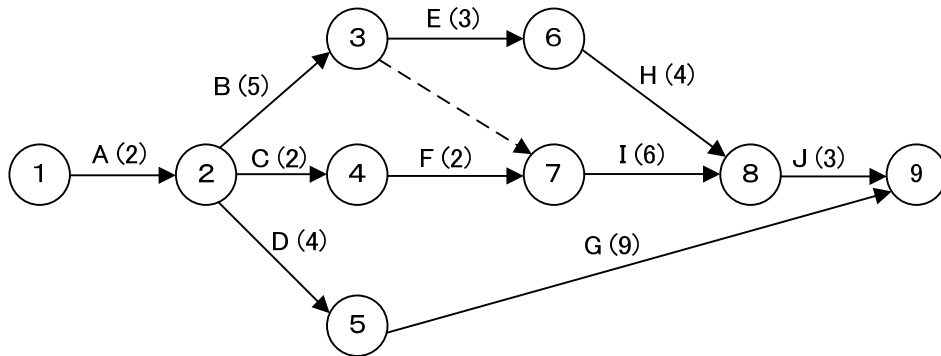


図 アローダイアグラム

図のアローダイアグラムにおける、全作業完了までの最短所要日数は□(1)となり、このときクリティカルパスは□(2)となる。

また、ノード5からの作業Gは作業Aの開始から最短で□(3)日後に開始できるが、作業Aの開始から遅くとも□(4)日後に作業を開始すれば、最短所要日数には影響が無い。

図の作業A~Jは、すべて1日の短縮が可能であり、短縮にかかる費用は次の表1のようになっている。

表1 作業を短縮する費用

単位：万円

作業	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
短縮費用	5	3	2	2	6	1	1	4	4	6

最短所要日数を最も安い費用で1日短縮するには、作業□(5)を短縮すれば良く、そのときの費用は□(6)万円になる。

(1) の解答群

ア. 15 イ. 16 ウ. 17 エ. 18

(2) の解答群

ア. A → B → E → H → J
イ. A → B → I → J
ウ. A → C → F → I → J
エ. A → D → G

(3) , (4) , (6) の解答群

ア. 1 イ. 2 ウ. 3 エ. 4
オ. 5 カ. 6 キ. 7 ク. 8

(5) の解答群

ア. B イ. C と F ウ. F エ. H

<設問 2> 次の作業工程に関する記述中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

ある開発プロジェクトは 8 か月で完成予定であり、投入人数及び月末時点での進捗は表 2 のとおりである。ところが、4 月末時点の進捗が全体の 40%であった。8 月末までにこのプロジェクトを完了するためには 5 月以降、あと (7) 名の追加要員が必要である。ここで、すべての要員の作業効率を、4 月までと同じとする。

表 2 投入人数及び月末時点での進捗表

項目	投入人数	進捗 (月末時点)							
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
計画	10名	12%	25%	37%	50%	62%	75%	87%	100%
実績	10名	10%	20%	30%	40%				

(7) の解答群

ア. 3 イ. 5 ウ. 10 エ. 15

問題3 次の情報の整理・分析技法に関する各設問に答えよ。

＜設問1＞ 次のパレート図に関する記述中の□(1)に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

パレート図とは、棒グラフと折れ線グラフを組み合わせた図で、全体に占める累計割合を見ることにより管理・分析を行うために利用する。例えば、図1では、棒グラフは売上高の大きい順に商品を左から並べ、折れ線グラフは累積売上高を表している。このパレート図を利用した在庫管理の分析手法に□(1)がある。この分析手法は、全商品の売上合計金額に占める累積売上高の比率で70%までの商品をA群、71%~90%の商品をB群、91%~100%の商品をC群とし、A群に属する商品を最も重要度の高い商品として管理する。図1でA群に属する商品は□(2)である。なお、全商品の売上合計は1000である。

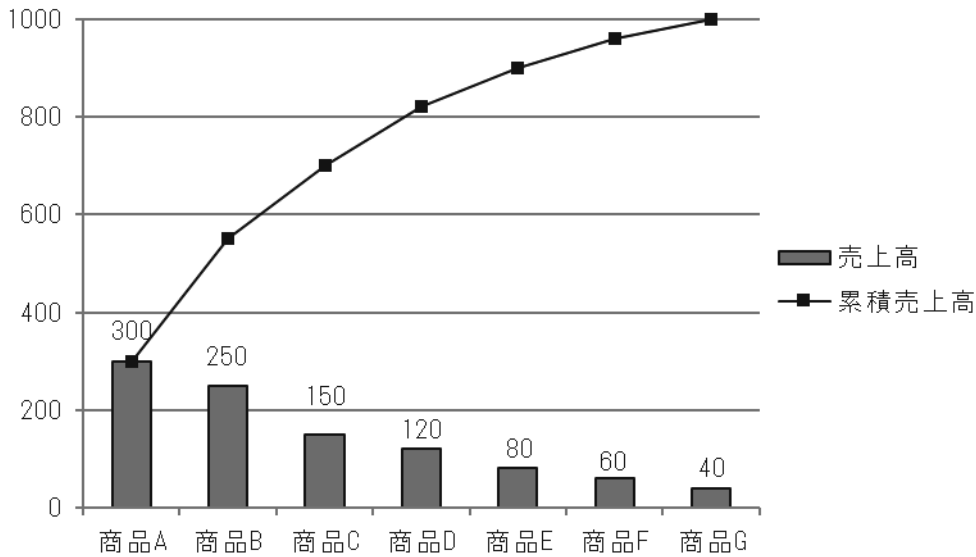


図1 パレート図

(1) の解答群

- ア. ABC分析
- イ. SWOT分析
- ウ. ポートフォリオ分析
- エ. リスク分析

(2) の解答群

- ア. 商品A
- イ. 商品A, 商品B
- ウ. 商品A, 商品B, 商品C
- エ. 商品B, 商品C
- オ. 商品B, 商品C, 商品D
- カ. すべての商品

<設問2> 次のZグラフに関する記述中の□に入るべき適切な字句を解答群から選べ。

Zグラフとは、毎月の実績値、その累計値、および移動合計値（当月までの過去1年間の合計値）を表す三つの折れ線グラフで構成するものである。一定期間の売上高や業績などの動向分析などに使われる。

図2は、売上実績表(表1)から□(3) (a)と、□(4) (b)をそれぞれ求め、2016年の売上実績の値(c)と共にプロットしてZグラフを作成した。

このグラフにより□(5)ということが分かる。

表1 売上実績表

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2015年	30	33	35	36	34	36	40	42	45	44	48	50
2016年	22	25	27	29	30	33	31	29	36	34	35	33

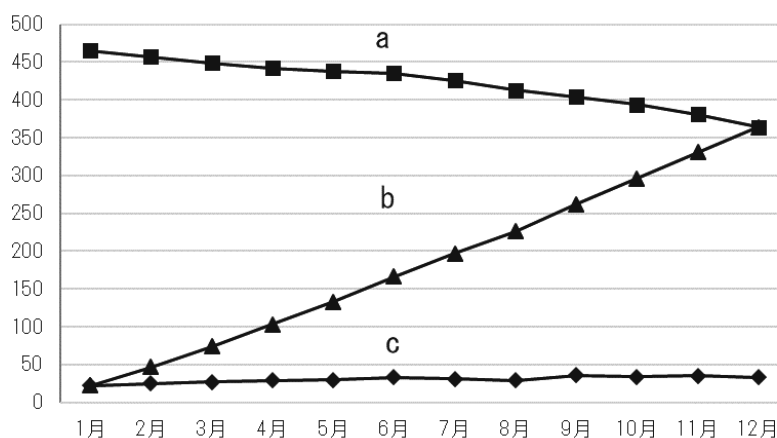


図2 Zグラフ

(3) , (4) の解答群

- ア. 2015年1月から2016年のその月までの合計
- イ. 2015年1月から同年各月までの累計値
- ウ. 2016年1月から同年各月までの累計値
- エ. その月からさかのぼって12ヶ月間の累計値
- オ. その月からさかのぼって13ヶ月間の累計値

(5) の解答群

- ア. 売上は前年に比べ減少傾向にある
- イ. 売上は前年に比べ増加傾向にある
- ウ. 売上は前年に比べ横ばい・停滞傾向にある
- エ. 売上傾向はこの図からは判断できない

＜設問3＞ 次のレーダーチャートに関する記述中の□に入るべき適切な字句を解答群から選べ。

レーダーチャートとは、□(6)のために利用するグラフである。円の中心から放射状に伸びる各項目の軸上に点を置き、それらの点を結んで作成する。原則として、中心に近い方は低い値、中心から遠い方は高い値とする。

複数店舗を経営するJ社は、各店舗について、一日平均客数、客単価、駅からの距離(近い方を高評価とする)、商品の種類数の項目について5段階に正規化して評価した。そのうちの店舗Aと店舗Bについてレーダーチャートを作成した(図3)。この図から各店舗の特徴は、店舗Aは□(7)であり、店舗Bは□(8)である。

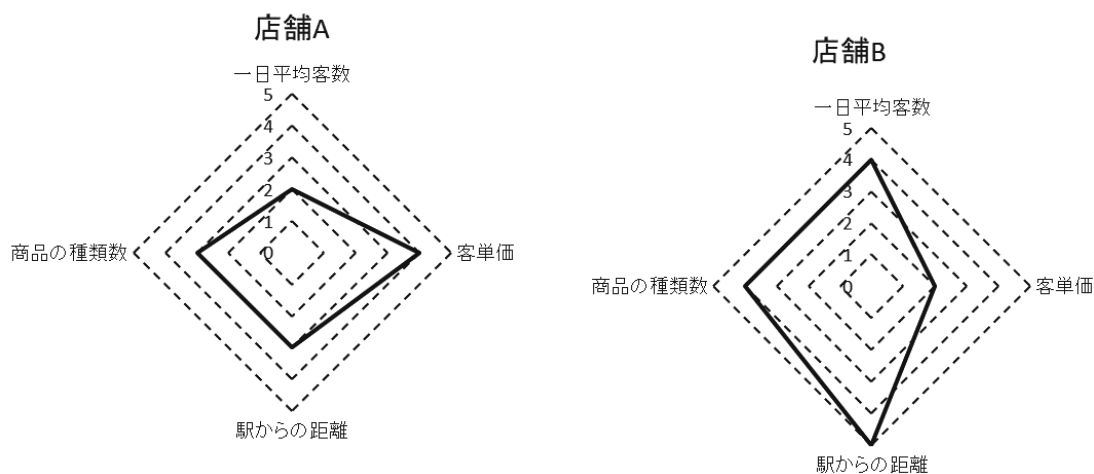


図3 レーダーチャート

(6) の解答群

- ア. 各項目間のバランスを把握する
- イ. 原因と効果の関係を表す
- ウ. 時系列での上下動を把握する
- エ. 他社とのシェアを比較する

(7), (8) の解答群

- ア. 郊外型の店舗で取り扱っている商品の種類が多く客数は少ないが、商品を大量に購入するケースもあるため客単価が低い店舗
- イ. 郊外型の店舗で大型商品を取り扱っているため客数が少ないが、商品を大量に購入するケースもあるため客単価が高い店舗
- ウ. 駅近の店舗で小型商品中心に多くの商品を扱っており、客単価は低いですが駅が近いため来客数が多い店舗
- エ. 駅近の店舗で小型商品中心に扱っているため種類は少なく客単価は低いですが、駅が近いため来客数が多い店舗

問題4 次のオートマンの状態遷移図に関する記述を読み各設問に答えよ。

オートマンの状態遷移図(以下、状態遷移図)とは、ある状態にいる時に与えた値によって状態間を遷移する様子を図式化したものである。他の表現方法として状態遷移表がある。

図1は、消灯状態にある照明器具を点灯するためにスイッチを操作(ONとOFF)する場合の状態遷移図である。「消灯」状態から「ON」スイッチを押すことにより「点灯」状態へ、「点灯」状態から「OFF」スイッチを押すことで「消灯」状態に遷移する。また、「消灯」状態で「OFF」スイッチを押しても「消灯」状態、「点灯」状態で「ON」スイッチを押しても「点灯」状態のままになる。

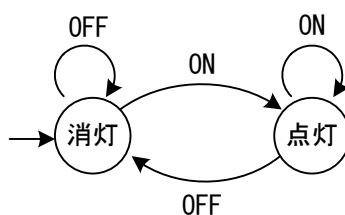


図1 照明の状態遷移図

この状態遷移図を状態遷移表で表現すると次の表1のようになる。

表1 照明の状態遷移表

		操作(値)	
		ON	OFF
状態	消灯	点灯	消灯
	点灯	点灯	消灯

<設問 1> 次の図 2 の状態遷移図をもとに作成した状態遷移表(表 2)の に
入れるべき適切な字句の組合せを解答群から選べ。

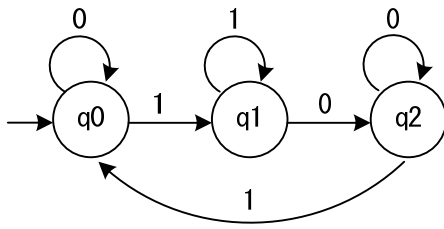


図 2 状態遷移図

表 2 状態遷移表

		値	
		0	1
状態	q0	<input type="text"/> (1)	
	q1	<input type="text"/> (2)	
	q2	<input type="text"/> (3)	

(1) ~ (3) の解答群

	0	1
ア.	q0	q1
イ.	q0	q2
ウ.	q1	q0
エ.	q1	q2
オ.	q2	q0
カ.	q2	q1

<設問 2> 図 2 の状態遷移図において、初期状態が q0 のとき、最終的に q2 になる入
力順を解答群から選べ。

(4) の解答群

ア. 0000 イ. 0110 ウ. 1010 エ. 1111

<設問 3> 次の状態遷移に関する記述中の に入れるべき適切な字句を解答
群から選べ。

図 3 は、A 君がじゃんけんをした時に、現在の手の次に何を出すかを表した状態遷
移図である。例えば、「グー」の次に「チョキ」を出す確率は 0.3 である。

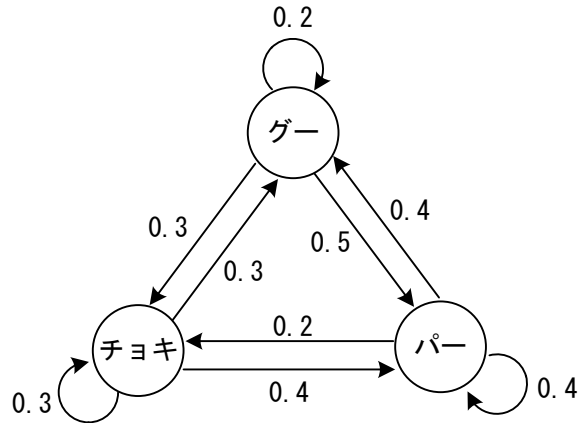


図3 じゃんけんの状態遷移図

ここで、A君が「グー」を出した2手後に「パー」を出す確率を考える。

「グー」の状態から2手後に「パー」の状態に遷移する場合は、最初の「グー」の状態から開始するとして、

- (a) 「グー」 → 「グー」 → 「パー」
- (b) 「グー」 → 「チョキ」 → 「パー」
- (c) 「グー」 → 「パー」 → 「パー」

の3通りになる。

・ (a) の確率

「グー」から「グー」へ遷移する確率と「グー」から「パー」へ遷移する確率を掛けて求めれば良いので、になる。

・ (b) の確率

「グー」から「チョキ」へ遷移する確率と「チョキ」から「パー」へ遷移する確率を掛けて求めれば良いので、になる。

・ (c) の確率

「グー」から「パー」へ遷移する確率と「パー」から「パー」へ遷移する確率を掛けて求めれば良いので、になる。

以上のことから、A君が「グー」を出した2手後にパーを出す確率はとなる。

(5) ~ (8) の解答群

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| ア. 0.06 | イ. 0.08 | ウ. 0.10 | エ. 0.12 |
| オ. 0.16 | カ. 0.20 | キ. 0.34 | ク. 0.42 |

問題5 次のネットワークの利用に関する各設問に答えよ。

<設問1> 次の無線 LAN に関する記述中の [] に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

LAN を構成する装置間の接続には、ケーブルを使用する有線 LAN と、ケーブルを使用しない無線 LAN がある。無線 LAN の規格は、IEEE [(1)] として広く普及している。

無線 LAN を構築するには、通常、図のように [(2)] を利用して LAN に接続する。最近のノートパソコンは無線通信機能を内蔵しているが、無線通信機能を持たないパソコンの場合、カード型やUSB型などの [(3)] をパソコンに接続して通信を行う。

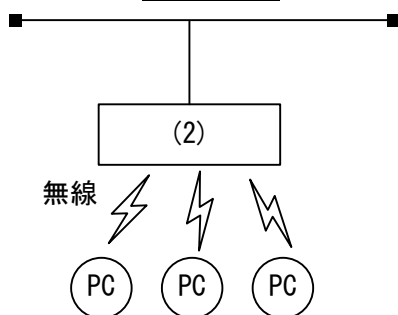


図 無線 LAN の例

無線 LAN では、同じネットワークの識別のために [(4)] が使用されている。同じ場所に複数の無線 LAN が存在していても、この識別名が異なれば混信することはない。

無線 LAN では電波が届く範囲であれば簡単に接続することができるため、有線 LAN よりもセキュリティ対策が重要となる。その一つとして [(5)] がある。これは、無線 LAN の業界団体である Wi-Fi アライアンスが標準化した方式で、AES 暗号に対応しており、セキュリティ強度が高められている。

(1) の解答群

- ア. 802.3 イ. 802.11 ウ. 1394 エ. 1471

(2) , (3) の解答群

- ア. アクセスポイント イ. スプリッタ ウ. ドライバ
エ. 無線 LAN アダプタ オ. リピータハブ

(4) , (5) の解答群

- ア. ESSID イ. MAC アドレス ウ. Ping
エ. WEP オ. WPA2

<設問 2> 次のインタフェースに関する記述中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

無線のインタフェースとして、次のようなものがある。 (6) は、赤外線を利用し、最大で 1メートルまでの通信に限られ、装置間の障害物に弱い。 (7) は、電波を利用し、10メートル程度まで通信可能であり、障害物にも強い。

(6) , (7) の解答群

ア. ATA

イ. Bluetooth

ウ. GP-IB

エ. IrDA

オ. RS232C

カ. SCSI

問題6 次のインターネットで用いるプロトコルに関する記述中の□□□□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

インターネット上では様々なサービスが提供されているが、これらは通信規格であるプロトコルにより円滑に運用されている。インターネット上で提供されている様々なサービスや機能とプロトコルの関係には、次のようなものがある。

・電子メール

電子メールアドレスを利用して複数の人との間で文字や画像などをやり取りすることができる。電子メールを送信する場合に利用するプロトコルは□□(1)□□である。電子メールを受信する場合に使用するプロトコルとして、電子メールソフトを使って電子メールを自分のパソコン内で管理する場合は□□(2)□□を、メールサーバ内で電子メールを管理する場合は□□(3)□□が使われる。

・WWW

Web ブラウザを利用してインターネット上に公開されている様々なページを閲覧できるが、WWW サーバと Web ブラウザの間でデータのやり取りに利用されるプロトコルが□□(4)□□である。情報を暗号化してやり取りする場合は、TLS(SSL)によるセキュリティを□□(4)□□に追加したプロトコルを利用する。

・ファイル転送

自分の Web ページを WWW サーバにアップロードしたり、データやプログラムをダウンロードしたりする場合に利用するプロトコルは□□(5)□□である。これは、一方がサーバ、もう一方がクライアントという関係になり、サーバへログインして利用する形態になる。ただし、匿名ユーザでのログインを認める場合もあり、不特定多数の人にダウンロードさせるような場合は、これを利用する。

・IP 電話

音声データを圧縮してパケットに変換し、インターネット回線を利用した音声通話のサービスを提供するものである。プロトコルは□□(6)□□を利用する。インターネットと同じ回線を利用できるので、通信コストの削減が期待できる。

・IP アドレスの自動割当

コンピュータがネットワーク接続する際に必要な IP アドレスやサブネットマスクなどの情報を自動的に割当てるときに利用するプロトコルが□□(7)□□である。限られた範囲の IP アドレスが管理されているので、IP アドレスの有効利用ができる。

・コンピュータの遠隔操作

ネットワークに接続しているコンピュータなどの情報機器を遠隔操作する時に利用するプロトコルが TELNET である。しかし、やり取りする情報は暗号化されていない。暗号化されたセキュアな通信をしたい時に使用するプロトコルは である。

解答群

- | | | | | |
|---------|--------|---------|---------|---------|
| ア. DHCP | イ. DNS | ウ. FTP | エ. HTTP | オ. IMAP |
| カ. POP | キ. PPP | ク. SMTP | ケ. SSH | コ. VoIP |

問題を読みやすくするために、
このページは空白にしてあります。

問題7 次の表計算ソフトの仕様を読み、「売上ランキング」ワークシートの作成に関する記述中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

この問題で使用する表計算ソフトの仕様は下記のとおりである。

CONCATENATE 関数

複数の文字列を結合して1つにまとめた文字列を返す。

書式：CONCATENATE(文字列1, 文字列2, …)

COUNTIF 関数

範囲に含まれるセルのうち、条件に一致するセルの個数を返す。

書式：COUNTIF(範囲, 条件)

MONTH 関数

日付から月の値(1~12)を返す。

書式：MONTH(日付)

RANK 関数

範囲内の数値を並べたときに何番目になるかを返す。順序は、降順の場合は0, 昇順の場合は1を設定する。

書式：RANK(数値, 範囲, 順序)

SUMIF 関数

指定した検索範囲の中で、条件に一致するセルの合計範囲に対応するセルの値の合計値を返す。

書式：SUMIF(検索範囲, 条件, 合計範囲)

VLOOKUP 関数

検索値を左端に含む行を範囲の中から検索し、指定した列位置の値を返す。検索の型に0を指定すると検索値と完全に一致する値を検索し、1を指定すると検索値と一致する値がない場合に、検索値未満で一番大きい値を検索する。なお、該当する行が検索できなかった場合は、エラーになる。

書式：VLOOKUP(検索値, 範囲, 列位置, 検索の型)

式

=に続いて計算式や関数などを入力する。

セル番地の絶対参照

セル番地に\$を付けることで、絶対番地(絶対参照)を表す。

別シートの参照

ワークシート名に「！」を付けてセル位置を指定することにより別シートを参照できる。

例：シート名「集計」のセル A1 を参照する場合は、集計!A1 と記述する。

ペットフード関連のインターネット販売をしている J 社では、1 年間の販売実績から販売状況を把握するため、表計算ソフトを用いて集計することにした。

基幹業務システムから必要な情報をダウンロードし、表計算ソフトに取り込んでから「商品」ワークシートと「販売」ワークシートを作成した。

[商品ワークシート]

商品ごとに商品 ID、商品名、1 個当たりの価格をまとめたもので、商品 ID の昇順に並んでいる。商品は全部で 10 種類ある。

	A	B	C
1	商品ID	商品名	価格
2	s001	フード(犬用) 1 Kg	1,500
3	s002	フード(犬用) 3 Kg	2,800
4	s003	ジャーキー(犬用)	800
5	s004	チーズ	600
6	s005	ビスケット	700
7	s006	ガム	800
8	s007	サプリメント(犬猫用)	1,200
9	s008	フード(猫用) 1 Kg	1,500
10	s009	フード(猫用) 3 Kg	1,400
11	s010	ジャーキー(猫用)	700

図 1 「商品」ワークシート

[販売ワークシート]

1 年間の販売情報を顧客 ID、販売日、商品 ID ごとにまとめたものであり、購入日、顧客 ID の昇順に並んでいる。1 つの商品を 1 回販売するごとに 1 件のデータとして作成してあり、全部で 1000 件ある。なお、同じ顧客が同じ日に同じ商品を購入することはないものとする。

	A	B	C	D
1	顧客ID	販売日	商品ID	販売数量
2	u006	20XX/1/1	s002	2
3	u018	20XX/1/1	s003	2
4	u100	20XX/1/1	s002	1
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
999	u089	20XX/12/30	s001	3
1000	u005	20XX/12/31	s002	2
1001	u064	20XX/12/31	s004	5

図 2 「販売」ワークシート

[販売ワークシートの拡張]

集計をするためのワークシートを作成するが、その準備として「販売」ワークシートを拡張する。

ここでは、E列に「販売金額」、F列に「検索キー」を求める。

	A	B	C	D	E	F
1	顧客ID	販売日	商品ID	販売数量	販売金額	検索キー
2	u006	20XX/1/1	s002	2	5,600	s002-1
3	u018	20XX/1/1	s003	2	1,600	s003-1
4	u100	20XX/1/1	s002	1	2,800	s002-1
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
999	u089	20XX/12/30	s001	3	4,500	s001-12
1000	u005	20XX/12/31	s002	2	5,600	s002-12
1001	u064	20XX/12/31	s004	5	3,000	s004-12

図3 拡張した「販売」ワークシート

販売金額は、商品の価格に販売数量を掛けたものである。セルE2に次の式を入力し、セルE3～E1001まで複写した。

=

検索キーは、これから作成する「販売ランキング」ワークシートの検索条件に使用するもので、商品IDと販売した月の間にハイフンを入れた文字列とする。セルF2に次の式を入力し、セルF3～F1001まで複写した。

=

(1) の解答群

- ア. VLOOKUP(C2, 商品!A\$2:C\$11, 2, 0)
- イ. VLOOKUP(C2, 商品!A\$2:C\$11, 2, 0) * D2
- ウ. VLOOKUP(C2, 商品!A\$2:C\$11, 3, 0)
- エ. VLOOKUP(C2, 商品!A\$2:C\$11, 3, 0) * D2

(2) の解答群

- ア. CONCATENATE(C2, "-", MONTH(B2))
- イ. CONCATENATE(C2, "-", MONTH(B\$2))
- ウ. CONCATENATE(C\$2, "-", MONTH(B2))
- エ. CONCATENATE(C\$2, "-", MONTH(B\$2))

[販売ランキングワークシート]

指定した月の商品ごとの販売金額と販売回数に順位を付けた「販売ランキング」ワークシートを作成する。なお、順位は降順である。

	A	B	C	D	E	F
1			月 9			
2						
3	商品ID	商品名	販売金額 合計	販売回数	販売金額 ランク	販売回数 ランク
4	s001	フード(犬用) 1 Kg	25,500	8	5	4
5	s002	フード(犬用) 3 Kg	30,800	6	3	9
6	s003	ジャーキー(犬用)	20,000	8	8	4
7	s004	チーズ	21,000	10	7	2
8	s005	ビスケット	25,900	12	4	1
9	s006	ガム	16,000	7	9	6
10	s007	サプリメント(犬猫用)	24,000	7	6	6
11	s008	フード(猫用) 1 Kg	45,000	10	1	2
12	s009	フード(猫用) 3 Kg	35,000	7	2	6
13	s010	ジャーキー(猫用)	4,900	3	10	10

図4 「販売ランキング」ワークシート

- セル B1 と A3~F3 に項目名を入力した。月はセル C1 に入力する。
- セル A4~B13 は、「商品」ワークシートのセル A2~B11 を複写した。
- 商品ごとの販売金額の合計を求めるため、セル C4 に次の式を入力し、セル C5~C13 へ複写した。
=
- 商品ごとの販売回数を求めるため、セル D4 に次の式を入力し、セル D5~D13 へ複写した。
=
- 商品の販売金額による順位を求めるため、セル E4 に次の式を入力し、セル E5~E13 へ複写した。
=
- 商品の販売回数による順位を求めるため、セル F4 に次の式を入力し、セル F5~F13 へ複写した。
=

(3) , (4) の解答群

- ア. COUNTIF(販売!A\$2:A\$1001, CONCATENATE(A4, "-", C\$1))
- イ. COUNTIF(販売!C\$2:C\$1001, CONCATENATE(A4, "-", C\$1))
- ウ. COUNTIF(販売!F\$2:F\$1001, CONCATENATE(A4, "-", C\$1))
- エ. SUMIF(販売!E\$2:E\$1001, CONCATENATE(A4, "-", C\$1), 販売!F\$2:F\$1001)
- オ. SUMIF(販売!F\$2:F\$1001, CONCATENATE(A4, "-", C\$1), 販売!E\$2:E\$1001)
- カ. SUMIF(販売!F\$2:F\$1001, CONCATENATE(A4, "-", C\$1), 販売!D\$2:D\$1001)

(5) , (6) の解答群

- ア. RANK(C\$4, C\$4:C\$13, 0)
- イ. RANK(C4, C\$4:C\$13, 0)
- ウ. RANK(C4, D\$4:D\$13, 0)
- エ. RANK(D\$4, D\$4:D\$13, 0)
- オ. RANK(D4, C\$4:C\$13, 0)
- カ. RANK(D4, D\$4:D\$13, 0)

